

有限会社 桜庭工務店

ユーザー訪問

弘前市栄町
2011年2月竣工

佐伯 尚幸 様邸

DATA

- 延べ床面積／48.27坪(159.91㎡)
- 使用青森県産材／ヒバ(土台、玄関ドア)、スギ(柱、外壁、床)、クリ(板土間)など。



休日の早朝5時。愛車のローリーサーにまたがって練習に集まった自転車仲間たちが、岩木川沿いのバイパスを清々しい風を切りながら一列になって疾走する。この中に、佐伯尚幸様と、桜庭工務店の桜庭尚利社長の姿があった。お二人は、自転車縁を取り持つ10年来の仲である。その朝、佐伯様は、ペダルをこぐ脚に力を加えて桜庭社長に近づくと、こう声をかけた。

「新築をお願いするときがきましたよ」

自転車も家族の一員 車と同様に車庫必要

ご主人の話 弘前大学の向かいに自転車屋さんがあります。マウンテンバイクとかロードレーサーといったスポーツ用自転車の専門店なんです。ロードレーサーとは、ツールドフランスやトライアスロンなどで使われるスピード用の自転車なん

ですが、その自転車屋さんで、10年ほど前に、自分の体に合ったロードレーサーを購入しようとして、洋服を仕立ててみるみたいに体の寸法を取ってもらっているところに、桜庭さんがやってきたんです。そのときはまだお名前は知りませんでしたが、お顔には覚えがありましたから、すでに店で何回か会っていたの



施主の要望で取付けられたリビングから出入りできるウッドデッキ



“表わし”の梁が開放的な吹抜けのリビング

でしょう。

桜庭さんが以前からロードレーサーに乗っていたとは、早朝の練習会で言葉を交わすようになってから知りました。自転車屋さんの呼びかけで練習会が行われるのです。自転車仲間が20人ほど集まって、岩木川

沿いのバイパスなんかと一緒にロードレーサーで走るんですよ。

「建てるときには相談します」と桜庭さんに初めて声をかけたのは、自転車仲間が1泊で開いた忘年会のときです。自転車の「車庫」の話をしたのをよく

憶えています。完成見学会のチラシとか夕刊の広告を見ても、自転車専用の車庫がある家は1軒ありませんでしたが、愛好者にしてみれば、通勤に使っているマウンテンバイクも、スポーツで乗っているロードレーサーも家族の一員のような

ものですから、雨の日に外で濡らしておくことはできません。そういう気持ちを分かってくれるのは、やはり自転車仲間なんです。忘年会でそんな話をしたら、桜庭さん、笑って大きくうなずいていましたよ。

奥様の話 隣の商店が主人の実家で、家を建てるまでその2階で家族4人暮らしていました。できれば町内に適当な土地があったら求めて新築する計画でしたが、ちょうどタイミングよくこの土地（現在地）が売りに出されたんです。手に入れたのが昨年（2010年）3月のことです。

家族玄関兼ねた板土間 堅く水に強いクリの木

ご主人の話 土地を買ってから、早朝の練習会で桜庭さんに声をかけたんですが、そのあとで、これに記入してくださいって桜庭さんが用紙を持ってきました。プランづくりのための要望書でした。それに基づいて



自転車のメンテナンスやトレーニングができるクリの木を張った板土間

設計するのだそうです。こう書き込みました。①自転車置き場がほしい②土間がほしい(自転車のメンテナンスやトレーニングができる)③リビングは吹き抜けにする(2階の子供たちの気配が伝わってくるような、各部屋を細かく仕切らない開放的な間取り)④ウッドデッキをつける(リビングから出入りできる場所にほしい)。

6月になって出来上がってきた図面のタイトルが、『板土間のある家』となっていました。板



カーポートの奥にも自転車ができる物置が造られた

土間は、玄関の脇に結構広く取ってありました。タタキの代わりに堅いクリの木を張って、家族玄関を兼ねた使い方ができるように配慮されていました。クリは水に強いそうですから、雨に濡れた自転車も気兼ねなく置けますし、玄関前のカーポートの奥にも自転車を置く物置を設けてくれたのは、さすが自転車仲間ならではの配慮です。

板土間から上がったところが、リビングです。要望どおりに吹き抜けになっていて、桜庭さんによると、太い梁が交差する“木組み”の様子がリビングから見上げられるのだそうです。図面を眺めただけで頭上に組まれた木の様子が見えるようでした。

奥様の話 すぐ近くに、うちの息子と幼なじみの子が住んでいます。その家が新築されたときに、遊びにおじゃましたことがあるんですが、リビングの吹き抜けがとっても開放的で、



リビングの吹抜け部分には太い梁が交差する“木組み”の空間が広がる



外壁にもスギが使用されている

いいなって思いました。柱や梁の木の色とか、陽が射し込んでいる明るさが印象に残りましたね。建てた工務店が、桜庭さんだったんです。その家のことだけじゃなく、弘前公園の「雪燈籠まつり」で小屋掛けをしている桜庭さんのお姿も見かけましたし、主人の通勤途中に桜庭工務店の現場がありましたし、とにかくいろんなところで出会いましたよ。

身近に桜庭さんとの“縁”があつたということですね。



『気創りの家』

有限会社 桜庭工務店

弘前市大字外崎4丁目2-6

TEL.0172-27-4320 FAX.0172-27-4325

http://saku-kou.com

E-mail:sakura52@amber.plala.or.jp



有限会社 大坊建設

ユーザー訪問

八戸市湊高台
2010年11月竣工

佐々木 様邸

DATA

- 延べ床面積／46.00坪(152.37㎡)
- 使用青森県産材／スギ(柱、床)、カラマツ(梁)など。



家づくりは見ることから始

まる。まずは展示場から。次に完成見学会。いろいろ見て回り、あれこれ検討しているうちに、どこに頼むか、そのきっかけとなる出合いがやってくる。ハウスメーカーの展示場を見学することから始まった佐々木様の場合の出合いは、大坊建設の建築中の現場で目にした「木」であった。見るからに頑丈そうなの太い柱と、床に張る分厚いスギの板。そこから、県産材を使った家づくりに取り組む大坊建設へ大きく近づいた。

見るからに頑丈そう 太い柱と分厚い床板

奥様の話 大坊建設の現場を

見学させていたかどうかと、主人と一緒に田子町を訪ねてみました。昨年(2010年)1月のことです。街なかをのびる一本道のすぐ脇に建築中の家がありました。そこが、電話で教えられていた大坊建設の新築現場

でした。

柱が太く、見るからに頑丈そう——それが第一印象でした。その脇の土の上に積まれてある板を眺めていたら、「それ、リビングとか部屋の床とかに張るスギの板なんです。厚さが30ミリあります」と大坊(大坊幸吉社長)さんが説明してくれました。主人が指で厚さを測ったり、表面をなでたりして、「へえー」と感心したふうにつぶ

やきました。木を一杯使った家づくりが、気に入ったんです。

その数か月前、大坊建設が八戸市内で「住宅相談会」を開くと知って、娘と一緒に会場へ出かけてみたくです。私が勤めている職場の女性社員が以前、大



美しい木肌を活かした和の空間

坊建設で家を建てていて、「何かあつて連絡する」とすぐきてくれるからいいよ」って聞いていました。そのこともあつて、出かける気になったんですが、大坊さんと仕事仲間という一級建築士の方が住宅プランをこしら



太くて見るからに頑丈そうな存在感のある柱や梁

えてくれるというので、一級建築士が考えるプランとはどういうものだろうかとお願ひしてみました。

それまで主人がわりと惹かれていたのは、H社の家なんです。

す。ヒノキを使っているところが気に入っているようで、そのH社からはすでに40坪のプランが提示されていました。わたしも娘も、そのプラン見てみましたけど、型にはまったような

間取りで、開放感がないっていうか、いまいちでしたね。これから建てる家は主人にとつては3回目になるので、あそこに頼んで良かったって主人の喜ぶ顔を見るのが家族にとつても喜びで

すし、急いでH社に決めないで、もつといろいろ見てみましようって言っていたときに、大坊さんの相談会があったんです。

お嬢さんの話

窓が大きくて、一杯付いていて、窓をあければ廊下や部屋を風が通り抜けるような昔の家みたいな造りがいいな、って思っていました。

ハウスメーカーの営業の方たちが競争するみたいにいる間取りを作って持ってきてくれたんですけど、パターンが一杯ある中から一つの間取りを選んだといったふうで、自分の家という感じがしませんでした。しかも窓が小さくて、少なくともそのことを一級建築士さんに伝えました。

開放感ある住宅プラン

“人が一杯呼べる”家

奥様の話 1か月ほどして出来上がった図面を拝見して、これだと人が一杯呼べるって感じでしたね。坪数が46坪あって、H社の間取りより6坪大き



風の通り抜ける大開口の窓や引き戸があるゆったりとしたリビングルーム



リビングと一体となったキッチンが開放感たっぷり

かつたんですが、ただ大きいというのではなく、ゆったり感があつたんです。リビングに友人たちが集まつて談笑している光景が見えるような気がして、楽しくなりました。娘の要望もちゃんと反映されていて、窓が大きく、風の吹き抜けを配慮した場所に窓が付いています。気に入りました。それがきっかけで、主人と大坊建設の現場を見に行く運びにつながつたんで

す。いろいろ見て歩いて、結果的には大坊建設に行き着いたっていう感じです。縁です。ね。
大坊社長の話 大工は木にこだわります。暮らしの空間に、木目や木肌の美しさを表現するためにこだわるのです。ところが、せっかく木を生かして建てた住宅の不動産取得税が、大壁のクロス張りよりも金額がはね上がるというケースが、実際に当社で建てた住宅であり



ポーチの太い柱や玄関にもふんだんに県産材が使用されている



県産材を使った長期優良住宅に対して国は補助金を出して建築を支援しているのに、木を生かした造りにすると、建物の評価が高くなって不動産取得税(評価額×4%)がはね上がるのでは、矛盾していると思うのです。

木の家を建ててくださるお客様たちのために、税制面で県産材使用の住宅に対する優遇措置が講じられることを強く望みます。

ました。

佐々木様も見学された田子町のM様邸なんですが、金額がなんと85万円です。こんなケタ違いの金額を請求されたのは初めてです。

県民局の税金の担当者のお話によると、大壁よりは真壁、クロス張りよりは漆喰壁の方が建物の評価が高くなるのだとか。国が定めたマニュアルがそうなっているのだそうですが、でも、これっておかしくはないでしょうか。



有限会社 大坊建設

本社 ●三戸郡田子町大字田子下田子69-4
 TEL.0179-32-3580 FAX.0179-32-3582
<http://www.ii-ie.net/daibou/>
 E-mail : kouki299@leaf.ocn.ne.jp

八戸営業所 ●八戸市下長5丁目9-9
 TEL.0178-28-2798 FAX.0178-21-3558



地産地消に取り組む
大工・工務店

13

玉田工務所

リフォーム展示場

弘前市南城西2-7-3
(玉田工務所隣)

玉田工務所リフォーム展示場

DATA

- 延べ床面積／43.56坪(144.29㎡)
- 使用青森県産材／スギ(床・外壁)。



築40年の中古住宅 断熱・耐震改修し再生

スギ板を打ち付けた下見板張りの黒い外壁に、『この指とまれ』…玉田工務所』の看板が掲げられている。中古住宅を改修した玉田工務所の『リフォーム展示場』である。赤色の玄関ドアから入ってすぐの、板敷の部屋は『住宅相談室』(20帖)になっている。中央に置かれた大きな鉄刀木(タガヤサン)のテーブルも、無垢の床も茶色で、内壁は白色。白といっても、浮き立つ白さではなく、明かりを吸い込むような厚みのある塗り壁だ。その調和が落ち着きある空間をつくり出している。外壁の「黒」と玄関ドアの「赤」、室内の床の「茶」と壁の「白」。シンプルながらも、男の隠れ家的雰囲気漂う渋い味わいの色づかいが、玉田工務所のセンスである。

相談室の隣は、生活空間になっている。対面式のキッチン



落ち着いた雰囲気を醸し出す木製の対面式キッチン

と、多目的ルーム(12帖)。トイレ、洗面室などの水回りも、階段の上の屋根裏部屋(6帖)も「茶」と「白」でまとめられている。

「サウナもありますよ」と、玉田健悦棟梁が1階の奥へ案内してくれた。洗面室の隣に、室内に

板が張り巡らされたサウナがあった。本場のフィンランドから取り寄せたという。黒っぽい石(サウナストーン)が積み重ねられている。釜を指して玉田氏が、

「この釜、薪ストーブなんです。薪を燃やして熱くなった石に水をかけると、蒸気が発生しま

す。電気ではなく、その蒸気を利用するんです。これが本式のサウナです」

* * * * *

玉田棟梁 新築よりリフォームの方が技術が求められます。新築なら初めから建てていくので

すから問題はありませんが、築30年とか40年といった、自分が建てたのではない古い家になると、解体してみても初めてという納め方をしているかが分かるのだから、臨機応変に対応できる技術が求められるわけです。

この『リフォーム展示場』も、築40年の中古住宅を次世代のオール電化住宅に改修したものです。新築が減っている今の時代、潜在需要としてはリ



大きな鉄刀木(タガヤサン)のテーブルが置かれた「住宅相談室」



男の遊び心をくすぐるウッドデッキのハンモック

フォームの方が高くなってきていますし、断熱や耐震改修を施せば木造住宅はまだまだ暮らせるものです。リフォームを検討している人たちに見ていただきたいと思ひ、展示場にしました。

世界に一つの一品もの 家づくりは相性が大事

家づくりにあたって、よく「高い」「安い」という言葉を聞きます。値段の比較ですね。それと「坪なんぼ?」。この質問もよく

されます。でも、家づくりって、値段から入っていいんだろかと思ひますね。あつちが高くて、こつちが安い、と単純に比較できるものでしょうか。値段さえ安ければその工務店で家を建てるのでしょうか。

同じ間取りで、木材は何の木を使い、床の仕上げ材には何を使い、壁には何を貼るといった細部に至るまでの仕様が全く同じで、それで積算した金額を比較するなら「高い」「安い」の違いは出てくるのでしょ



本場フィンランドから取り寄せたサウナ



「茶」と「白」で統一され、“男の隠れ家”を思わせる渋い味わいのリビングルーム



生活を彩るオリジナリティあふれる照明器具



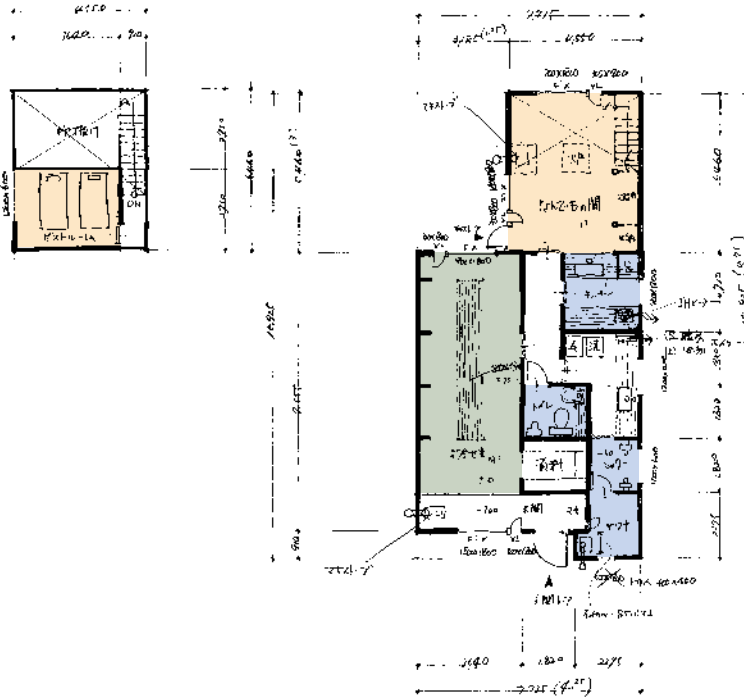
ど、でも、そのやり方って公共工事の入札と同じですよ。自分が暮らす家を、入札にかけて、安い金額をはじき出した工務店に頼む、そういう判断で建てて良いものでしょうか。

家を建てようと計画している人は、こういう家を建てたい

というイメージがそれぞれあるはず。そのイメージに合った家づくりをしている建築家なり工務店なりを探すが先だと考えます。家って、施主にとつて世の中に一つしかない一品もの。ですから、共同作業で形にしていこうと、お互いの”

相性”が合うかどうか、考え方とか性格の相性ですよ。それが何よりも大事であつて、金額ではないと思うのです。

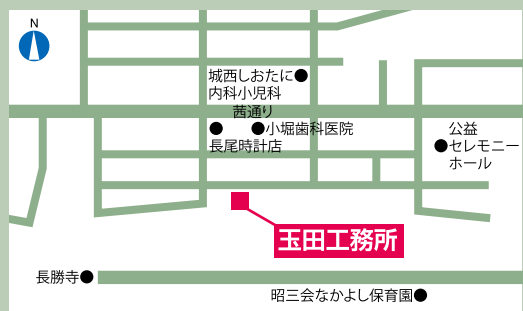
相性のことも含め、築40年の中古住宅がどのように生まれ変わったか、一度、見学においでください。



中古住宅を改修した「リフォーム展示場」の設計図

“津軽の家” 玉田工務所

弘前市大字南城西2-7-4
TEL.090-2604-2967
<http://www.tamada.e-arc.jp/>
E-mail : sumai@tamada.e-arc.jp



日野建ホーム 株式会社

ユーザー訪問

青森市三内
2011年8月竣工

福井 利文 様邸

DATA

- 延べ床面積／40.38坪(133.77㎡)
- 使用青森県産材／ヒバ(土台)、スギ(柱、梁、大引、小割など)。



住宅の高断熱・高気密に約30年も前から先駆けて取り組み、青森における住宅性能のレベルアップへ地元建築業界を牽引してきた日野建ホーム。さらなる省エネルギー性のグレードアップを追求し、ヒートポンプ式温水暖房をいち早く導入した『無駄のない家』が、『ハウス・オブ・ザ・イヤー・エレクトリック2009』で大賞を受賞、実力の高さが証明された。性能に加えて、自然素材のしつこいや県産材に包まれた快適な居住空間を実現した住まいが、福井利文様邸である。

全国に通じる「日野建」 省エネ性が大賞を受賞

ご主人の話 転勤先の仙台から昨年(2010年)青森に帰ってきたときには、家を建てようと思った。持家の敷地に建て替える計画もあったのですが、転勤していた間に

周りが高いい家に囲まれて雪が溜まりやすくなっていたので、他に土地を求めるとにしま

した。授かるみたいにすぐに、新しく開通した広い道路沿いに土地が見つかりました。



ヨーロッパ調の趣を漂わせるポーチ(左)と高断熱の玄関ドア(右)



高気密・高断熱で四季を通じて快適なリビングルーム



シンプルな中にも変化のある空間が広がる2階ホール

土地が決まれば、次は工務店です。家の近所で開催されていた日野建ホームの完成見学会へ妻と行って見たのが、昨年の9月です。見るといふより、「建ててください」とお願いに行っただけです。対応してくださったのが田中さん（田中章営業部長）でした。

私が、家に一番求めたのは「省エネルギー性」です。断熱・気密がしっかりしていなければ、暖房費だけがかさんで暖かくないということになります。

ロスが多いということは、二酸化炭素（CO₂）の排出量も多いということ。日野建ホームの家なら、高断熱・高気密です。地球温暖化が問題になるずっと以前から、日野建の新聞広告や完成見学会のチラシにはいつも「高断熱・高気密の家」と書かれていましたから、何回も目にしているうちに高断熱・高気密なら日野建ホーム、と印象づけられたのでしよう。

その実力が証明されたのが『ハウス・オブ・ザ・イヤー・エ

クトリック2009』（財団法人・日本地域開発センター主催）での大賞受賞です。大手ハウスメーカーや全国の工務店の応募の中から、日野建ホームの省エネ・省CO₂性が最も高く評価されたのです。このことを新聞で知ったのは昨年（2010年）1月で、まだ仙台にいました。が、ふるさとの青森に全国に通じる優秀な工務店があることを誇りに思いましたね。

奥様の話 主人はもっぱら断熱とか気密の住宅性能にこだわりましたが、わたしの関心は間取りとか部屋の造りでした。まず、キッチンが、オープンキッチンにしないこと。対面式になっていると、リビングからキッチンの内側が見えるから、壁で隠してほしいと要望しました。それから、階段はリビングにすること。廊下に付けると、学校から帰ってきた子供の姿が見えませんか。それと、あまり室内を飾り立てないで、シンプルにすること。あっさりしてい

た方が住みやすいです。これらをお伝えして、あとは一切、田中さんにお任せしました。

Q値が1以下の断熱性の国の長期優良で耐久も

田中部長の話 どの工務店でも高断熱・高气密と口にはし

ますが、それを数値で裏付けるのがQ値です。Q値とは、断熱性能を数値で表した熱損失係数のことで、この値が小さいほど性能が高いのです。福井様のお宅はQ値が「1」を切っていて、 $0.89\text{W}/\text{m}^2\text{K}$ なのです。Q値は、その地域ごとに目標となる全国次世代省エネ基準が

設けられていて、青森地区は「 $2.4\text{W}/\text{m}^2\text{K}$ 」、北海道地区は「 $1.6\text{W}/\text{m}^2\text{K}$ 」ですから、1を切るということは、北海道よりも基準が高いということになります。Q値ばかりでなく、福井様のお宅は隙間相当面積を示すC値（ $0.39\text{cm}/\text{m}^2$ ）も高いです。暖房はヒートポン



白い壁と木肌の色合いが落ち着いた雰囲気演出するリビングの吹抜け



ヨーロッパ風に壁面をくりぬいた“ニッチ”(飾り棚)



「県産材エコポイント」を活用したテーブル(上)と物入れ付きのベンチ(下)

プ式温水暖房システム、24時間換気もドイツ製の顕熱熱交換型換気システムを採用しています。これは、福井様の住宅性能に対する意識の高さの表われなんです。国の長期優良住宅の認定も受けていますので、耐久性も万全です。

ご主人の話 日野建さんに頼んだら“おまけ”が一杯付いてきました。一番のおまけが家具です。構造材に県産材をふんだんに使ってくれたことで、『県産材エコポイント』を活用して手作りの家具と交換できました。リビングの引き出し付きのテーブルと、物入れ付きのベンチがそうです。日野建の職人さんがス

ギで作ってくれました。スギの色が、内壁のしつこいの白とマッチして、くつろげます。奥様の話 もう一つあります。玄関ポーチの物入れです。「ここにあったほうが便利ですよ」と田中さんが付けてくれたんです。自転車まで置いて、とっても重宝しています。

日野建ホーム株式会社

青森市柳川1丁目2-62
TEL.017-723-6161 FAX.017-723-6166
<http://www.hinoken-home.co.jp/>
E-mail : info@hinoken-home.co.jp



地産地消に取り組む
大工・工務店

15

有限会社 やまの工藤建設

ユーザー訪問

青森市大野
2009年3月竣工

齋藤様邸

DATA

- 延べ床面積／90.00坪(298.00㎡)
- 使用青森県産材／ヒバ(和室天井、階段手すり)、ケヤキ(柱、梁、手すり)など。



玄関に立つと、正面に、2階へ斜めに伸び上がる幅広い「木」が目に入る。鉛色の光沢を放つ青森ヒバだ。樹齢200年ほどの太い丸太を縦割りにし、根元の緩いカーブを階段の手すりに生かしたもので、磨き込まれた木肌が2階の天窓から射し込む明かりを反射している。玄関ホールの脇に立つ格子戸を開けると、中はリビングで、開放的な吹き抜けに交差して組まれた4本の褐色の梁はケヤキだ。齋藤様邸は、階段手すりのヒバも、曲がりのある梁のケヤキも、山で育った天然のままの樹形が室内空間に力強い野趣を添えている。

「いいケヤキがあるよ」

10年以上も自然乾燥

ご主人の話 「家を建てるならいいケヤキの木があるよ」と、私の知人が情報を寄せてくれました。山から伐り出してから、10年以上も工務店の倉庫で自



写真右側の2階へ伸びる階段の手すりは、樹齢200年ほどの青森ヒバを利用したもの

然乾燥させているケヤキだそうですね。無垢の木はよく乾燥させないと建てたあとに反ったり、ねじれたりするので乾燥が大事だといえますから、10年も乾燥させているという工務店の姿勢に、話だけでも信頼感がわきましたね。

その工務店が、やまの工藤建設だったんです。知人が太鼓判を押すケヤキの木を、妻と一緒に見に行ってみました。

奥様の話 自然の木が持つ力というんでしょうか、倉庫に置いてあったケヤキには何かこう山の精気でも宿っているようで、「物」ではないような気がしましたね。主人はひと目ですっかり気に入ってしまっって、自分の家の柱とか梁とかにそのケヤキが使われた様子を想像しているふうでしたよ。

もちろん、わたしもケヤキは素敵でしたけれど、それ以上に気に入ったのが、その日に拝見した、やまの工藤建設で建てたお宅でした。工藤（晃史）専務さ

んが案内してくれたのです。一見して、惚れ込んでしまいました。建てるならこんなふうにとわたしが抱いていたイメージどおりの家が目の前に現れたという感じでしたね。何をどう気に入ったのか言葉にするのは難しいんですが、床も木、壁も木、天井にも木を使っているんですけど、その使い方がくどくなくて、白っぽい内装と木が合い具合にマッチしていて、明るく、開放的で、つまりはセンスが良かったんですね。家のセンスは建築した人のセンスです。その場で、工藤専務さんに建てていただくこうって決めちゃいました。

家を支えてくれている 「木の持つ力」に安心感

ご主人の話 実はその前に、私の知人から紹介されたある設計事務所から住宅プランを提示されていたんです。結構大きな設計事務所で、主にビルの設計を手がけているらしいんです



開放的な吹抜け部分に交差して組まれたケヤキが印象的なリビングルーム



褐色の太い梁が堂々たる迫力を醸し出す玄関ホール



玄関の内壁に取付けられたケヤキの飾り棚

が、住宅の設計もしているといふことなのでお願いしてみたんですけど、上がつてきた図面からいまいちピンと伝わってくるものがありませんでした。妻も同じ意見でした。紹介された手前もあつて無下に断るわけにもいきませんし、でも、建てた家に長年住んでいくのは私たちが

すし……と、あれこれ思い悩んでいたときに工藤専務さんとお会つたんですよ。
奥様の話 やつぱり家つて、住宅専門の工務店に頼むべきものなんだなつて感じましたね。餅は餅屋、家は工務店、ということなのでしょう。ビルで生活するわけではありませんから

ね。

ご主人の話 私、薬剤関連の仕事をしているのですが、アトピー皮膚炎とかアレルギーを持っているお子さんがすごく多いです。住まいの中に原因があるんですよ。病気を引き起こす化学物質が室内の空気に混じっているということですね。毎日暮らしている家の中に病

気の原因があるのですから、考えてみれば怖いことです。ですから、建てる家は木の家にしようと思つていましたし、わが家だけに限らず、健康上からも、化学物質を含まない無垢材を使った家は見直されるべきだと思いますね。

奥様の話 階段の中2階に私専用のコーナーがあるんですが、そこに据え付けてあるテーブルもケヤキです。階段ホールを囲んでいる手すりもケヤキですし、キッチンの食卓テーブルもケヤキなんです。工藤建設さんの倉庫にあったケヤキを拝見したときに感じた「自然の木



ケヤキのテーブルを配した中2階にある奥様専用のスペース



食堂のテーブルや階段の手すりにもケヤキが使用されている



の持つ力が、そのままこの家を
支えてくれているようで、それ
が知らず知らず安心感につな
がっているんですね。安心感こ
そ快適さです。

有限会社 やまの工藤建設

北津軽郡鶴田町大字境字北原73-24
TEL.0173-22-3448 FAX.0173-22-5472
<http://www17.ocn.ne.jp/~yamano-k/>
E-mail : yamano-k@fine.ocn.ne.jp



